



## 能登半島地震 人の支援報告

参加者： 理事長 鈴木健弘 専務理事 関根 健

支援日： 2024年2月5日（月）

支援場所： 石川県七尾市

作成者：関根 健

# 地震の概要

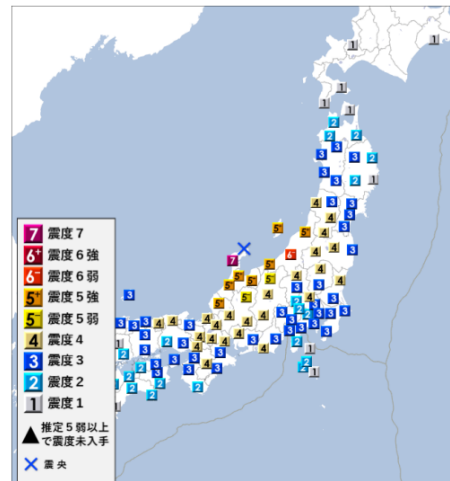
検知時刻 <small>(最初に地震を検知した時刻)</small>	1月1日16時10分
発生時刻 <small>(地震が発生した時刻)</small>	1月1日16時10分
マグニチュード	7.6(暫定値)
発生場所	石川県能登地方(輪島の東北東30km付近) 深さ 16km(暫定値;速報値 ごく浅いから更新)
発震機構	北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型(速報)
震度	【最大震度7】石川県の志賀町(しかまち)で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測
地震活動の状況 1日21時00分現在	16時以降、震度1以上を観測した地震が59回発生(震度7:1回 震度5強:3回 震度5弱:5回 震度4:14回 震度3:28回 震度2:8回)
長周期地震動の観測状況	石川県能登で長周期地震動階級4を観測

# 震度7を観測

## 震度7 石川県

(揺れの強かった地域)  
家の倒壊や土砂災害の危険  
今後の地震や雨に十分注意  
危険な場所に入らない!  
※1週間程度(特に今後2～3日の間)  
最大震度7程度の地震に注意

1月1日16時24分発表



資料：気象庁 報道発表3報

## 1.人的支援 協力依頼 詳細

【七尾市ボランティアセンターへの協力依頼について】

被災地への人的支援について、七尾市では先駆けてボランティアセンターが立ち上がり、それに伴い七尾市よりボランティアセンターの運営に関する要請を受けています。

つきましては、被災地の復旧、復興に向けて全国のメンバーにボランティアスタッフのご協力をいただきたく、お願いいたします。

【重要】

期日が短い中での要請となり、お手数をおかけすること、ご了承願います。

返信期日を2月1日18時とさせていただきます。

ご参加していただけるメンバーがいましたら、私の個人ラインに

○日～○日まで○名 と連絡をいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

◆人的支援の期日

2月5日(月)から2月11日(日)の間で一週間。

※被災地の状況を把握しながら、七尾市での支援延長や、他の市町に関する支援も行う可能性がありますので、事前にご理解とご協力をお願いします。

◆人的支援の内容

- ・軽トラボランティアへの協力。(主に倒壊した家屋の家財の搬出。)
- ・ボランティアスタッフの送迎。(車両はこちらで手配しています。)

◆集合場所

七尾サンライフプラザ

〒926-0021

石川県七尾市本府中町ヲ3 8

◆募集人数

2月5日から2月11日まで、各日9名から17名でご協力のほどよろしくお願いいたします。

◆注意事項

- ・服装に関しては、スプレッドシートのボランティア服装マニュアルをご参照願います。
- ・事前にオリエンテーション動画をご参照願います。
- ・駐車場について、ボラセン内駐車スペースをご参照願います。
- ・昼食の時間を設けていますので、各自でよろしくお願いいたします。(近隣の飲食店は営業していません)

◆下記、石川ブロック支援予定表(全地区)へご入力 of のほどよろしくお願いいたします。

2月8日(木) 石川ブロック支援予定表									
支援内容(予定):七尾市災害ボランティアセンター現地本部での受付・送迎・現地作業など									
ボラセン:七尾サンライフプラザ 〒 926-0021 石川県七尾市本府中町ヲ38									
※七尾サンライフプラザに到着後、場内にて現地スタッフの指示を受けてください。									
①服装についてはこちらをご覧ください。 <a href="#">ボランティア服装マニュアル</a> ※作業内容の変更の際、対応出来るようご準備ください。 ※ヘルメットは現地で貸与できます。				<b>当日作業 LINEグループ</b> <a href="https://line.me/t/j/Sl35Gv6o2">https://line.me/t/j/Sl35Gv6o2</a> 当日作業内容に係る担当者: 地区の担当者:北陸信越地区協議会 社事務局長 080-1956-6622 ブロックの担当者:石川ブロック協議会 瀬戸副会長 090-6819-8147 <b>【参考リンク】</b> <a href="#">七尾市災害ボランティアセンター</a> <a href="#">通行実績情報マップ</a> <a href="#">ボランティアセンター現地本部組織図</a> (流出させないこと。当日と体制が違う場合があります。) <a href="#">市内のトイレの情報</a>					
②事前はこちらのオリエンテーション動画をご覧ください。 <a href="#">事前の準備</a> 長さ:2分半程度 <a href="#">活動の心得</a> 長さ:2分程度				【伝言板】					
③駐車について(駐車スペースが決まっております) <a href="#">ボラセン内駐車スペース</a>									
④災害ボランティア車両の高速道路無料措置について <a href="#">高速道路通行証明書発行サイト</a>									
⑤注意事項									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の状況により支援内容が変更となる可能性がありますのでご了承ください。</li> <li>・昼食、軽食類はご持参ください。</li> <li>・現地の給油所は一般車はご利用にならない場合があります。</li> <li>・受付後、毎日QRコードから保険の申込をしてください。(すぐ終わります)</li> </ul>									
				支援者希望数		34		終日(8:00~17:15)	
				支援お申し出		30			
				不足数		4			
				備考あり		0			
種別	日時	No	記入日	氏名	ブロック	LOM	連絡先	備考	
(記載例)	○月○日 ○時○分	-	○月○日 ○時○分	北信越 太郎	富山	北信JC	080-○○○-○○○○		

## ◆災害ボランティア服装マニュアル

# 災害ボランティア服装マニュアル

Facebook に接続する

サイボウズ災害支援チーム 柴田哲史です。コロナ禍の状況に合わせて一部文章を追記しています。(2021/6/23)

2011年以降、20カ所近い災害ボランティアセンターでのIT支援の経験から、災害ボランティア活動に最低限必要なウェア類をまとめてみました。活動時の服装は、災害の種類、作業内容、季節によって変わってきますが、初心者向けにベースとなる服装と基本的な考え方をお伝えできればと思います。

### 最低限必要なウェア類

**災害ボランティア  
最低限必要な  
ウェア類**

- 帽子
- マスク
- タオル・てぬぐい
- 長袖の服
- ゴム手袋
- ウェストポーチなど
- ベットボトルなど 自分用飲み物
- 長ズボン
- 踏み抜き防止インソールを入れる
- 運動靴

※財布・スマホなど貴重品は自分で管理!

災害ボランティアセンターでは、マスクや軍手など用意されているところも多いですが、このような服装や道具を備えておくと、より安心です。

新型コロナの感染を防ぐためにも、マスクは必須ですので予備も含めて用意しておきましょう。

なお、被災地では、トラックが行き交ったり、泥のかき出しで粉じんが舞っていることが多いので、防じんマスクやゴーグルをした方がよい場合もあります。

また、暑くても長袖・長ズボンにして、釘などの踏み抜き防止インソールなどを使用するなど、けが予防を心がけましょう。

そして、正式な活動であることがわかるようにセンターで用意している名前シールやピブスを着用しましょう。もし所属する団体のモノがあれば、ボランティア活動中ということがわかるようにして、地域住民に不安を与えないような配慮も大切です。

### 現地の状況に必要な道具

**災害ボランティア  
現地の状況で  
必要な道具**

- 雨具
- 着替え
- 大きなビニール袋
- 充電器
- 長靴
- 保険証コピー
- 常備薬

※水害時は必須 踏み抜き防止インソールも忘れずに。

※バスで送迎してもらう際に汚れた靴などを入れる。

※冬場はバッテリーがすぐになくなる。

※炎天下では、熱射病対策で塩飴等も有効です。

当日の急な天候の変化も考えられますので、雨具や着替え・タオルなども用意しましょう。

水害の場合は、長靴は必須となります。しかも、とても汚れますので、作業後に送迎車両を汚さないように、ビニール袋と替えシューズを用意するとよいでしょう。

冬場のスマートフォンのバッテリーは、減りがとても早いので、モバイルバッテリーを持参すると役立ちます。

真夏の炎天下の場合は、作業15分+休憩といった過酷な環境になることもあります。

コロナ禍での活動を考えると、密にならないように作業10分+休憩10分を2つのグループで交互に行うやり方も推奨されています。

また、ごまめに水分補給をしたり、帽子・塩飴等を用意して熱射病対策をするなど、体調には十分な注意と備えが必要です。

万が一、けがや熱射病になったとしても、現地のスタッフに過度の負担をかけないように、ミニ応急セットや保険証のコピーを持参し、**ボランティア活動保険**には必ず入っておくようにしましょう。

## 2. 人的支援の活動

※

8:00 JC集合・ミーティング

8:30 対外に開所

9:00 受付開始

9:30 ボランティア出発

12:00～13:00 昼食(自炊)

15:30 ボランティア帰着

16:30 報告・打合せ・申し送り

17:15 閉所

### ① 8:00 全国各地からのJCメンバー集合



～人的支援の活動内容等のオリエンテーション～

- ・出欠確認
- ・災害ボランティア保険の加入
- ・全国各地からのボランティアの皆さんを迎える準備（JCが指揮をとり、全国からのボランティアさんと共に活動する為、出迎える姿勢をお願いしますとのこと。）
- ・ボランティアの皆さんがVC（ボランティアセンター）に到着するまで、準備物（ロープやハンマー、ボール、ヘルメット等）の準備、または併設している被災者の避難場所の仮設トイレ等の掃除等の作業。
- ・役割分担（ボランティア送迎、2tトラック・軽トラック運転者、撤去物収集等）
- ・連絡方法（LINEグループ）の共有と説明
- ・活動の際の注意点等の説明

※鈴木理事長と関根は軽トラックで、VCより指示を受けた被災住宅へ行き、荷を積み込み収集場所への運搬作業の担い。

② 9:30 全国各地からのボランティア到着及び全体ミーティング、グループ毎のミーティング



・JCメンバーとボランティアとグループに分かれて、リーダー決めや作業場所や作業詳細の説明、確認を行った。（各グループにはID〇〇〇と番号が振り分けられる。）

・作業内容として、家財等搬出、ガラス及び土嚢処理・清掃・ブロック塀撤去等がある。

・ボランティアは帰路のVCへの集合時間があり、時間厳守の為、時間配分等も含めリーダーは基本的にはボランティアから選出。

・基本的には、VCより指示のある、人的支援の要請のある被災住宅に伺い作業を行う。

・VCには、手袋、合羽、釘踏み防止ソール、ホックイロなどの消耗品等の配布や、ヘルメット、ロープ、ブルーシート、ハンマー、バールなどの道具を各自車両へ積み込む準備も行う。

・最初の活動場所の住所や場所を確認する。また断水が続いているため、トイレの使用可能なまちづくりセンターなどの場所も把握する。

### ③ 各自活動場所へ出発



- ・トラック（2t ダンプ、軽トラック）及びボランティア送迎用車両（ハイエースやキャラバン）
- ・LINE にて各グループ、事前に住所や活動場所を確認し、向かう。
- ・給油の場合は、VC に厳重管理してある表示カードを受け取り、指定ガソリンスタンドへ向かう。  
給油後は、すぐ VC に返却する。



- ・活動場所に向かう道中、揺れの大きさを想像できる被害を目にする。特に屋根の瓦、外壁、ブロック塀の被害が目立つ。また築年数が古く、構造的にも弱い建物（昔の木造）の倒壊が目立つ。また道路（アスファルトの割れや浮き上がり）も多く、至る所で緊急工事が行われていた。



#### ④ 活動場所到着（鈴木理事長・関根 グループ ID231）



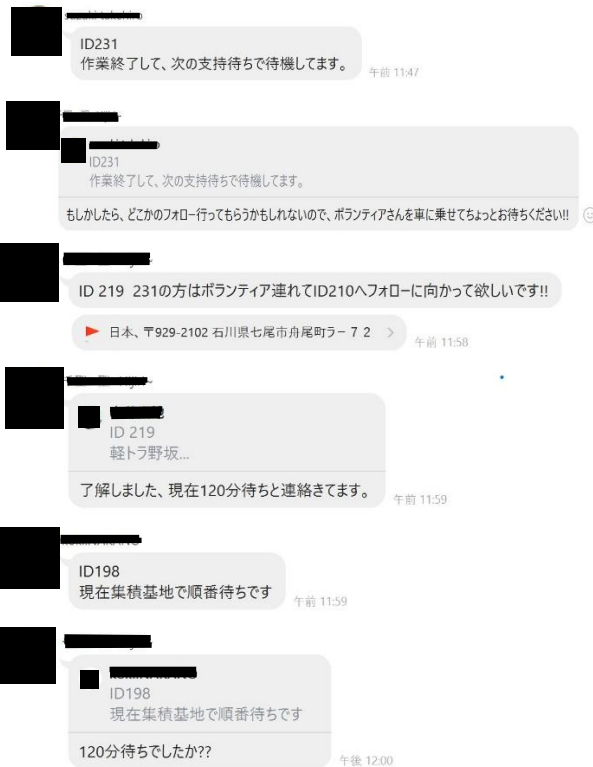
- ・現地に到着し、家主より状況や撤去するものを確認し、運び出し、トラックに積み込む。  
注意）事前に、ボランティアの安全を確保する為、職員の事前のチェックを受け活動可能な家屋に限られているが、余震の際の倒壊の可能性も考慮し、ボランティアの判断で活動するか保留にするかを確認する。
- ・大きなものは家主の気持ち（思い出等大切なものかもしれない）にも配慮し、ハンマーやバー、ノコギリ等で細かくして積み込む。



・震災から1ヶ月経過していることもあり、家主さんも細かな破損物（ガラスや陶器等）は分別してくれていた。集積場は分別が必須であるため、積み込む順番も考慮することが必要となる。

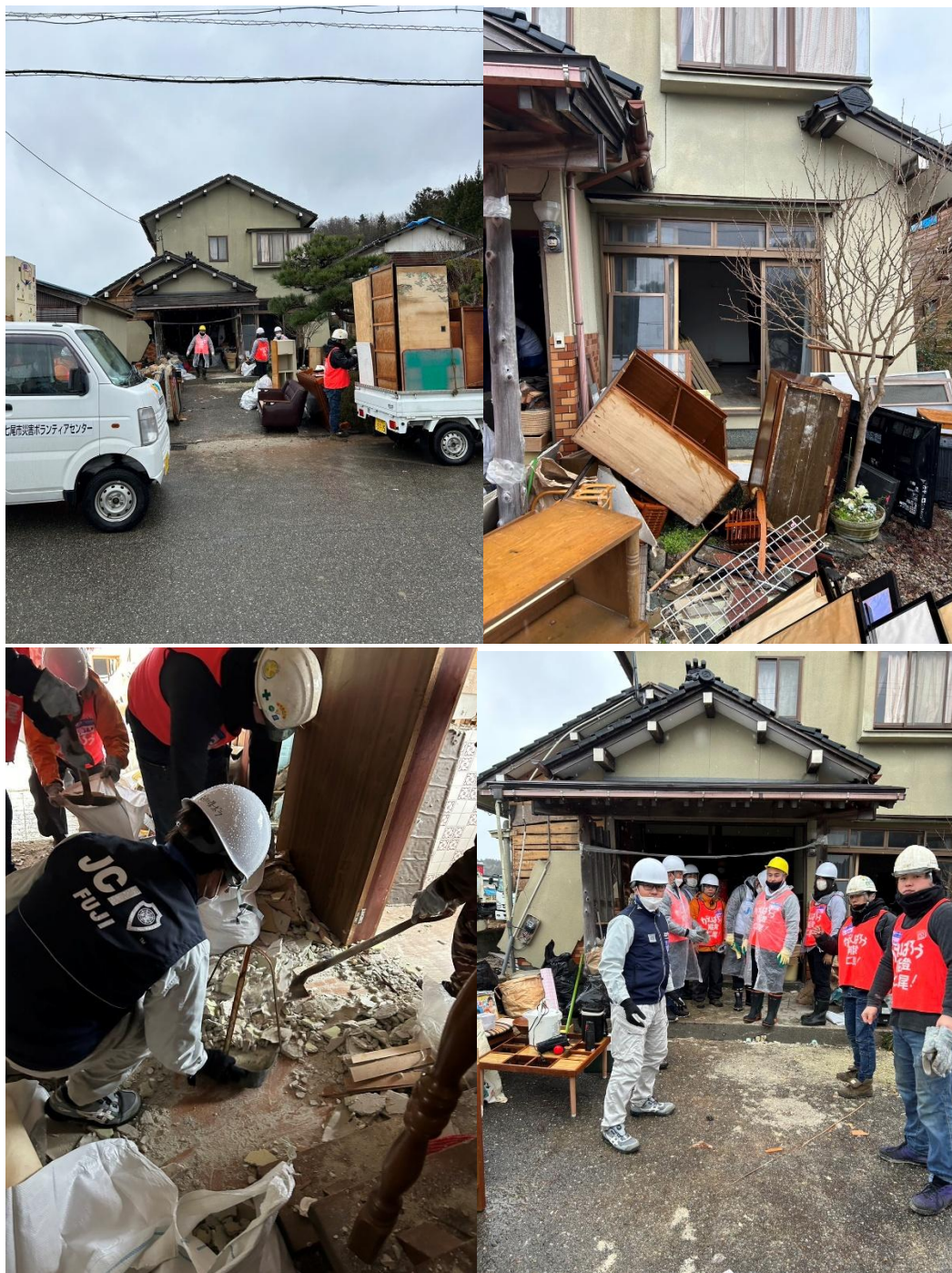
### ⑤ VC への作業完了報告及び指示待ち

・LINE で VC への作業の報告、現況報告（集積場の待機時間が最大 150 分）であり、まだ軽トラックには荷が積み込むことが可能なため、指示を受ける。



※ID は各グループに振り分けられる番号。

次の活動場所へ



- ・既に到着していたグループと協力して、荷の積み込み、内部の掃除、畳の撤去等を行った。
- ・写真ではわかりづらいが、家が全体的に傾いているのがわかる。安全の確保の観点からは、活動可か不可かの微妙なラインであるが、家主さんはじめ家族の方々も、共に作業を行った。
- ・集積場の待機時間（この時 90 分）とボランティアの作業終了時刻も考慮し、積み込み次第集積場へ向かうと同時に、雨が雪へと変わり強さも増していった。

## ⑥ 集積場



・一般の方々も、撤去等しているため、集積場で荷を下ろすまでに最大 150 分待ちであった。



・集積された多くの畳。



・荷は分別のヤード毎、行政職員の指示のもと、各自でおろす。



・可燃物 壁材 家電製品 畳 ガラス・陶器 ステンレス等 家具 等分けなければならず、引き取ってもらえないものもあった。荷下ろし待ちの車両の長蛇の列で、作業効率を考慮すると分別の重要性も理解できるが、荷をおろすボランティアの増員等、改善の余地があるように思えた。



・雨が強まり、雪へと変わり1時間程度で積もり始めた。被災者にとっても、ボランティアにとってもこの天候は、とても厳しい状況であり、地域や気候も災害復旧に大きく影響していると感じた。



・荷をおろし、VCへ報告、作業を終え集合の指示を受け戻った。

⑦ ボランティア見送り 及び 報告・申し送りミーティング



・活動を終えての翌日以降の作業の為に申し送り等ミーティング

意見 1) 必要な道具がないケースが見られたため、トラックには道具セットを常備で配置したらどうか

意見 2) 昼食休憩が必要なのはわかるが、実際の作業時間 10:30~14:30 なら、昼食休憩が必要か。それか作業効率も考え検討の余地はある。

意見 3) 集積場の待機時間がかかる為、トラックの増設は必須である。※実際、この日にトラックの増設を 6 台ほど行った。 等

このように日々の作業後の申し送りを、この後の社会福祉協議会との会議でその都度、意見を述べ改善していく。といった流れ。

・実際の作業時間は少ない。その日、初めての活動する方々が大半を占める。不慣れな中、作業をしてもらうには、説明や休憩、報告等などは必須であることも管理者目線から考慮すると、適正な時間だと感じる。

・断水での環境下は予想以上に厳しい状況であった。トイレが使用できないのは厳しい。避難先の仮設トイレでは使用後、バケツにて水を運び自分で流していた。集団避難生活においても、衛生面も含め、生活環境対策への準備は最重要である。

・古い家の全壊、半壊、破損が目立ち、住人もご高齢の方々ばかりであった。比較的、外観的には築年数が浅い住宅は目立った破損は見られなかった。いつ地震が来るかわからない為、難しい問題かと思うが、築年数が古い空き家（古い木造）などの建物は2次災害を防ぐためにも、事前の対策等は講じる必要を感じた。

・気候や土地柄も考慮し、季節に応じた災害対策の必要性も感じた。

### 3. (一社) 高岡青年会議所へのお見舞い

葛本才陽先輩の2019年度の日本青年会議所への出向から、ご縁のある富山ブロック高岡青年会議所のある富山県高岡市も、震度5強の地震被害となり、私（関根）の2021年度の日本出向の際に、お世話になったメンバーの皆様が多く在籍していることもあり、鈴木理事長がご挨拶もかねて、お見舞いに伺いたいとのことで、人的支援後にお見舞いに伺わせていただきました。

2023年8月の富士市豪雨災害の際も、高岡青年会議所のメンバーの方々は「心配です。大丈夫ですか？」「何か必要なことがあったら何でも言ってください。とんでいきますから！」など、ご連絡をいただいたことを思い出しながら、伺った当日は、正副会議のということもあり、米田理事長はじめとする正副メンバーの皆様にお見舞いとお挨拶をさせていただきました。正副後にご連絡をいただき、この関係性の起点となった花田将司先輩も駆けつけてくださり、会食をしながら会員拡大のことや現在のLOMの活動内容等の未来のお話をさせていただきました。

災害が多発する中ですので、地域と地域が災害時の連携で繋がることはありますが、人が人を思うその先に、様々な局面で、まちとまちが繋がると感じましたし、そう感じさせてくれる仲間がもの日本出向の醍醐味、青年会議所の魅力を再認識しました。



中央：花田将司先輩（高岡青年会議所 OB 歴代理事長）

右：（一社）高岡青年会議所 米田理事長



花田将司先輩 及び（一社）高岡青年会議所 正副メンバーの皆様



## 4. 人的支援を終えて

人的支援を終え、帰路の際に思ったことは、たとえ1日だとしても被災地の状況を肌で感じ、経験できたことは、自分が住まう地域がもし大規模な災害が発生した時、また発生する前に活かせることができる貴重な1日でありました。現在、様々な面で、社業が大変なメンバーが多い中ではあります。もしかしたら支援に行くか迷っているメンバーがいたとしたら、この機会をしっかりとメンバーに伝え、参加を促すことができれば、共に1歩踏み出すメンバーもいたのかなと理事として大きく反省しております。この報告を作成させていただいたのも、その反省を踏まえ、少しでもこの経験や活動内容を可視化し、多くのメンバーが見ていただくことで、イメージしていただければ幸いです。多くのメンバーが自分事としてとらえ災害に対するイメージを持っていただくだけでも、災害時の素早い初動に繋がると思っています。今後、住まうまちに大規模な災害が発生した時に、我々はどのような行動をとるのか、連携（行政や社会福祉協議会等）を図るのかなど、まち、社業、家族のリーダーとしてどう行動すべきなのかを考えさせられる起点となる1日でした。どんな有事の際にも、力強く行動を起こせるように今後を活かしていきたいと思っております。

POWER TO THE FUTURE!

